病棟における服薬指導の重要性

種子島岩男

第60回国立病院総合医学会
(平成18年9月22日　於京都)

IRYO　Vol. 61　No. 10 (666－668) 2007

要旨　都城病院は，平成18年4月人事異動により，薬剤師1名減員という状況になり従来の業務体制を変更する必要に迫られた．変更するに当たり薬剤業務を減らすことなく，薬剤管理指導の1人当たり指導件数100は保持するという条件を薬剤科全員で確認した．

これまで日常業務の進み具合を各自が考慮しながら病棟業務をすすめていたため，ロスタイムや個人差が生まれていた．そこで，日常業務に講義・会議・講習会・病棟フリー日設定も考慮して，タイムスケジュールを毎日作成し，薬剤科全員が1日1回1時間以上，週1回約1日を服薬指導および病棟業務に専念できるよう配慮した．この数カ月で軌道に乗り，当初の目標を達成することができたので，タイムスケジュールの内容，服薬指導業務，病棟関連業務について報告する．

キーワード　タイムスケジュール，服薬指導，病棟業務

はじめに

当院は，平成18年4月人事異動により，薬剤師1名減員という状況になり従来の業務体制を変更する必要に迫られた．そこで，日常業務に講義・会議・講習会・病棟フリー日設定も考慮して，タイムスケジュールを毎日作成し，薬剤科全員が1日1回1時間以上，週1回約1日を服薬指導および病棟業務に専念できるよう配慮した．この数カ月で軌道に乗り，当初の目標を達成することができたので，タイムスケジュールの内容，服薬指導業務，病棟関連業務について報告する．

タイムスケジュールの内容

現員の6名で最も効率のよい業務スケジュールを5つのパターンに分けて組むことにした．その時にポイントとなるのが，病棟フリータイム，看護学校講師，会議出席者，新人薬剤師，製剤日，フリータイム設定である．

病棟フリータイムは，担当病棟フリーの日を各自1日（週1回）設定し，ほぼ5時間のフリータイムとした．看護学校講師には，新人薬剤師と薬剤科長が併任していて，講義のある日も1日1時間は病棟フリーを設けた（基本的に2名同日・同時間の授業はなしとしている．講義は15時に終了）．会議出席者の場合も1時間のフリータイムを設定した．会議の延長や，患者の指導に時間がかかっても調整がきくようにフリータイムと会議を連続させることにした．新人薬剤師（1年未満のため）には，週1時間のフリー予備（1枠多くした）を設定し，指導件数をこなすだけでなく質の重視を心掛けるよう配慮している．製剤担当者は，水曜日が病棟フリー日（1日）のため，製剤業務にかかる時間を考慮し，木曜

国立病院機構都城病院　薬剤科（現：鹿児島共済会　南風病院　薬剤科）
別刷請求先：種子島岩男　鹿児島共済会　南風病院　薬剤科　〒892-8512　鹿児島市長田町143
（平成19年2月26日受付，平成19年6月15日受理）
Importance of Medication Teaching in a Ward
Iwao Tanegashima
Key Words: schedule at time, medication teaching, hospital ward operation

表1　服薬指導および病棟業務に専念できる時間枠

業務スケジュール	服薬指導および病棟業務に専念できる時間枠
病棟フリータイム	9：30～12：00、14：00～17：15
看護学校講師	15：00～16：00
会議出席者、新人薬剤師	14：00～15：00
製剤日	14：00～15：00、16：00～17：15
フリータイム設定	14：00～17：15（3枠設定する）

日は2時間フリータイムを設定した（1時間フリー，1時間フリー予備，計2時間）．

1日フリーの日以外のフリータイム設定は，午後より3枠作った．

病棟フリータイムは約5時間とし，看護学校講師，会議出席者，新人薬剤師，製剤日，フリータイム設定は1枠1時間で組み，1枠は2名までとした．

タイムスケジュールを採用し，1カ月分の薬剤科全員の動きを比較したところ，全体業務の約2割（前年度比5％アップ）を服薬指導および病棟業務に費やすことができた（17年度　15.6％，18年度21.4％）．

服薬指導業務

「全入院患者を指導対象とする」が当院服薬指導の原則で，平成12年度からは指導件数が薬剤師一人当たり月100件を超えるようになった．院外処方箋発行と業務の省力化，薬剤管理指導システムの活用等により，勤務時間内に業務を終えているのが当院の特徴である．また業務の改善にも取り組んでいて18年度は医師，看護師への服薬指導内容および連絡事項の伝達をカルテに記載するよう努めた．下記のグラフは平成18年度の指導件数．

4月は薬剤師1名減，1名新人，科長の交代があり，117件だったが，5月から120件を超えるようになった．

病棟関連業務

病棟関連業務として，入院時患者持参薬管理，錠剤の粉砕・一包化，定数保管薬管理の他，各種委員会のなかで，緩和ケア委員会，感染防止対策委員会での活動を紹介する．

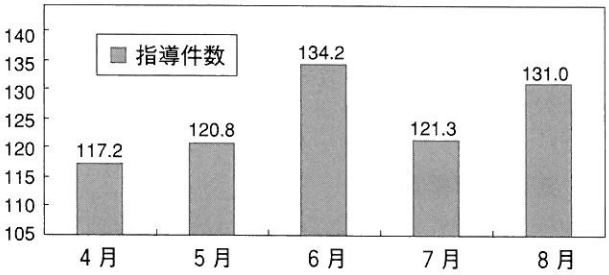

図1　H18薬剤管理指導件数（薬剤師1人当たり月別件数）

1．入院時患者持参薬管理

入院時患者持参薬は，一包化された薬剤では簡易な判別がつきにくく，また手術や外科的処置のために休薬する必要がある薬剤の有無等は，薬剤師による鑑別が必要とされる例も多い．そのため，平成18年7月から持参薬鑑別はすべて薬剤科で行うことになった．当院の持参薬鑑別依頼手順は，入院時オリエンテーションを看護師が行った際，持参薬の続行・中止にかかわらず，すべての持参薬を「錠剤鑑別報告書」とともに薬剤科に提出し，薬剤鑑別と服薬方法に応じた分別を依頼する．継続または中止は「錠剤鑑別報告書」で医師が決定する．持参薬鑑別は，紹介状やお薬手帳の記載内容を参照するので初回面談時での，持参薬調査はもちろん，過去の服薬歴，副作用歴，アレルギー歴，OTC薬・健康食品の服用などの事項を確認するのに役だっている．

2．錠剤の粉砕・一包化

錠剤の服用が困難な患者さまには錠剤を粉砕し散剤に剤型をかえる，また複数の薬を併用している患者さまには正しく薬を服用できるよう，1回に服用する薬をまとめる一包化など患者さまが薬を服用しやすくなるような工夫を医師の指示により実施しているが．これまで依頼書もなく，口頭で受けていた．それで再調剤の危険性を考慮し，「錠剤の粉砕・一包化依頼書」を作成し，薬剤科に錠剤の粉砕・一包

表2　入院時患者持参薬調査（平成18年度）

	4月	5月	6月	7月	8月
入院時患者持参薬調査件数	9	19	21	38	41
錠剤の粉砕・一包化指示	19	13	11	14	18

化を依頼する際は，「錠剤の粉砕・一包化依頼書」に必要事項を記載し，薬剤と共に持参するようにした．

7月からすべての持参薬鑑別を薬剤科で行うことになり，持参薬鑑別件数が倍増した．錠剤の粉砕・一包化指示も少しずつ増加傾向にあり，今後も増加していくと考えられる．

3．定数保管薬管理

病棟および外来の定数保管薬が適正に管理されているか，担当薬剤師が，3カ月に1回，数量，有効期限，保管状況等を確認する．保管薬の薬品・数量の変更は必要時行い，薬品保管証を作成する．

4．チーム医療への参加

褥瘡対策委員会，緩和ケア委員会，クリティカルパス委員会，感染防止対策委員会等で薬剤科は専門知識を生かしチーム医療に参加している．なかでも，オピオイドの使用マニュアル作成や抗生物質の適正使用では，薬剤師が中心になって取り組んでいる，

・緩和ケアチーム（オピオイドの使用マニュアル作成等）
・抗生物質の適正使用（抗MRSA薬剤の管理等）

考　　察

薬剤師1名減員という状況になり従来の業務体制を変更する必要に迫られ，全薬剤師が1日1回1時間以上，週1回約1日を服薬指導および病棟業務に専念できるタイムスケジュールを作成した．薬剤業務を減らすことなく，薬剤管理指導の1人月当たり指導件数100は保持するという目的で作成されたタイムスケジュールは薬剤科員の結束をかため，薬剤管理指導では5月から1人月120件を超えるようになり，各自の薬剤科業務もスムーズに行えるようになった．これまで日常業務の進み具合を各自が考慮しながら病棟業務をすすめていたため，ロスタイムや個人差が生まれていたが，タイムスケジュー採用によりロスタイムが少なくなった．またタイムスケジュールを採用し，1カ月分の薬剤科全員の動きを比較したところ，全体業務の約2割（前年度比5％アップ）を服薬指導および病棟業務に費やすことができた（17年度　15.6%，18年度　21.4%）．

日常業務に講義・会議・講習会・病棟フリー日設定も考慮し，また当日の業務変更等にも対処して作成したタイムスケジュールは当院薬剤科にとって有用であると考えられる．

おわりに

薬剤師が毎日病棟に行くことで，病棟スタッフとのコミュニケーションがとりやすい環境となった．入院時患者持参薬管理，錠剤の粉砕・一包化，定数保管薬管理等の病棟業務では看護師も協力的になり，服薬指導に関する患者情報も入手しやすくなっている．今後は，服薬指導を基点とした病棟業務のなかで医療安全に貢献していきたいと考えている．